

2012年（会報第20号）

山行記録



新津ハイキングクラブ

表紙のことば

表紙は、春、佐渡・^{しやらんどうやま}岨巒堂山に登った時の写真である。山頂から下る処で、残雪を頂いた金北山と樹根周りの残雪がドーナツ状に融けて幾何学模様に見えた。また、お目当てのオオミスミソウにも出会えた。



佐渡へは、新潟から両津まで67km シェットフォイルで1時間。両津港に入る頃になると、山並みが見て取れる素晴らしい本邦最大の島である。佐渡は生き活きとした自然の中に、昔からの文化がそっくり残され、佐渡金山や民謡佐渡おけさ。今では朱鷺の自然繁殖が待たれる今日この頃である。



「越後の山旅」藤島玄によると、佐渡は概ね並行して南北に走る二条の細長い新第三紀層の山脈と、それをつなぐ沖積層の国仲平野から成り、西を大佐渡山脈または金北山脈、東を小佐渡山脈または単に前山と呼んでいる。両山脈とも開析が進んだ老年期の山である。山容は円味をおびて女性的で、山頂部はいたるところに高原状の芝場を展開している。標高は大佐渡山脈の金北山が1,173.4mで最高。他は何れも1,000m内外、小佐渡山脈は大地645.8mで、600m内外の丘陵が連互している。

大佐渡山脈は、傾斜が東に緩慢、西に急峻、随所に断崖や露岩、流土が屹立し、芝生の柔らかい線に変化を与えて引き締めている。山また山の奥深さはないが、温雅であり、牧歌調の風情に富み、親しみやすい山々である。

佐渡の山の特徴は、四季の景観の変化が極めて顕著で、山頂から山腹至る処に清冷な清水が湧きだして、日帰り登山にと、縦走にと興味深いコースが多数ある。放牧の牛馬が仔を連れて、人を怖がるでもなく、悠々と芝を食む抒情的風景、緯度（岨巒堂山は北緯38°07'、東経138°22'）と季節風また、霧の多い処から、トリカブト、マツムシウ、レンゲツツジ、ハクサンシャクナゲ等の高山性、寒地性植物の多いことと、最後に素晴らしい景観がある。



岨巒堂山751mは大佐渡連山に囲まれた一角に在り、山頂から見る景観は、眼前にシラネアオイで有名なアオネバ溪谷から峠（溪谷に沿って青色の土）が見え、左手から小佐渡の山々、国仲平野、金北山、花の百名山ドンデン山（尻高山）そして、光り輝いている日本海と大パノラマが広がる展望の山である。しかもこの雪溶け季節は福寿草、カタクリ、花色が豊富なオオミスミソウは命の息吹で覆っていた。佐渡はワンダー・アイランドである。

編集後記

2011年の山行は記録すくめで、参加者が1,000名を越えたこと。平均5回以上参加されたことでした。皆さんが日々努力している姿がうかがえます。これからも、充実した会になるよう日々努力したいものです。

(1322)N/S

発行日 2012年（平成24年）2月4日

編集者 広報 (1322)N/S、(1448)Y/O、(1056)K/S

発行団体名 新津ハイキングクラブ <http://niitsuhc.web.fc2.com/>